

第七十四回帝國議會 衆議院 青年學校教育費國庫補助法案委員會會議錄(速記)第五回

付託議案
青年學校教育費國庫補助法案(政府提出)

會議

昭和十四年二月二十二日(水曜日)午前十時
二十四分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野村 嘉六君

理事長野 高一君 理事會和 義式君

理事一ノ瀨俊民君

手代木隆吉君

長野 長廣君

田子 一民君

河上 哲太君

坂本宗太郎君

椎尾 辨匡君

同月二十一日委員田中源君辭任ニ付其ノ補
關トシテ樋口善右衛門君ヲ議長ニ於テ選定
セリ

出席國務大臣左ノ如シ

文部大臣 男爵荒木 貞夫君

出席政府委員左ノ如シ

陸軍少將 中村 明人君

文部政務次官 小柳 牧衛君

文部省普通學務局長 藤野 惠君

文部省實業學務局長 小笠原豐光君

文部省社會教育局長 田中 重之君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

青年學校教育費國庫補助法案(政府提出)

○野村委員長 是カラ開會致シマス——長

野長廣君

○長野(長)委員 私ハ青年學校ノ教練ニ關

スル事柄、並ニ青年教育制度ニ關スル事柄ニ付

テ、陸軍當局ノ御見解ヲ承リタイト思ヒマス

第一ニ、青年學校ニ於ケル教練ノ成

績ハ、近時著シク向上セラレマシテ、地方

ノ民衆トシマシテモ、此ノ教練ガ實際生活

ニ即シマシテ、漸次一般ノ青年氣風ノ上ニ、

又職業生活ノ上ニ現ハレテ來ツアルコト

ヲ喜ンデ居ルノデゴザイマス、而シテ今日時

局下ニ於キマシテ、彼等青年ガ戰場ニ出テ、

振古未曾有ノ戰功ヲ樹テツアルコト、又

銃後ノ國民軍ノ第一線ニ立チマシテ、一般

青年ト共ニ青年學校生徒ガ努力シテ居ルコ

トハ、皆教練ノ效果ニ負フコトガ大デアル

ノデアリマス、隨ヒマシテ將來優秀ナ兵士

ヲ澤山養成スル點カラシマシテモ、又國民

總動員ニ依ツテ、時局ヲ切抜ケル所ノ國民

軍ノ編成ノ立場カラ考ヘマシテモ、一層教

練ノ效果ヲ擧ゲナクテハナラヌト存ジマス、

ソレニ付テハ其ノ指導員ノ充實ヲ圖ルコト

ガ急務トナツテ來ルノデゴザイマス、私共

ノ見テ居ル所デハ、指導員ハ何レモ熱心ニ

ヤツテ居リマスケレドモ、何分時局柄經驗

ガアル者ハ應召シテ行クト云フヤウナ次第

デアリマシテ、相當之ニハ考慮ヲ要スルト

思ヒマス、ソコデ今後青年學校ニ於ケル指

導員ノ地位ヲ確保シマシテ、サウシテ優良

ナル指導員ハ、安ンジテ專ラ指導ニ當リ得

ルヤウニ、其ノ職制竝ニ待遇ヲ向上スル必

要ガアリハシナイカト考ヘマス、又更ニ中

等以上ノ學校ニ於テ、配屬將校ガ漸次其ノ

成績ヲ向上シテ行クトニ鑑ミマスルト、此

ノ青年學校ニモ、數校ニ一名位ノ配屬將校

ヲ置イテ、比較的濃厚ニ檢閲指導ノ出來ル

ヤウナ制度ヲ新ニ設ケ、サウシテ全國一般

ノ青年學校ノ教練ヲ充實スル、又一面ニ於

テハ、其ノ現役指導員ガ教練指導員ノ話相

手トナリ、相談役トモナリ、又十分ナル指

導ノ出來ルヤウニ致シマスルナラバ、茲ニ

文部ト陸軍トガ握手シテ行ツテ居リマス此

ノ青年教育ノ成績ガ、著シク向上スルノデ

ハナイカト考ヘマス、是等ニ關スル御見解

並ニ實施ニ關スル研究等ニ付テ、御抱負ガ

アリマスルナラバ承リタイト存ジマス

○中村政府委員 今カラ十年前ニ文部ト陸

軍トガ堅ク手ヲ取リマシテ、ソレヲ代表シ

テ私共ト共ニ長野委員ハ、所謂當時ノ青年

訓練ニ日夜奔走致サレマシテ、今日茲ニ陸

軍ノ答辯ヲ御要望ニナリ、私ガ代ツテ御答

ヲスルト云フコトハ、洵ニ感ノ深い次第デ

ゴザイマス、隨テ既ニ私共ノ懷イテ居リマ

スル思想ナリ、抱負ナリハ、十分長野委員

ハ御承知ノコトト存ジマスガ、茲ニ改メテ

御説明ヲ申上ゲル次第デアリマス

青年學校ニ於キマスル教練指導ノ實ニ有

意義デアルト云フコトハ、重ネテ申上グル

マデモアリマセヌノデ、隨テ此ノ教練指導

員ニ良材ヲ持ツテ來ル、而シテ其ノ待遇ナ

リ地位ヲ向上シテ、職責ヲ十分盡サシムル

爲ニハ、何カ規程、職制ト云フヤウナモノ

モ必要デハナイカ、斯ウ云フ御質疑デゴザ

イマスガ、青年學校ノ使命ノ重キ、殊ニ教

練ト云フモノガ、青年訓練所時代カラノ研

究ニ依リマシテ、非常ニ有效デアルト云フ見

地カラ見マシテモ、只今ノ御提案ハ頗ル同

意ヲスル所デアリマス、早急ニモ私共トシ

テハ望マシイ事デアリマスガ、唯是ガ實現

ト云フコトニ付キマシテハ、屢、關係當局ト

モ連絡ヲシテ居リマスシ、又將來モシタイ
トハ思ツテ居リマスガ、如何セン、現況ニ
於キマシテハ、地方財政モ色々出費多端ノ
時デアリマセウシ、又國家ノ補助モ、既ニ
義務制ニナリマシテモ、本年提案ニナツテ
居ルヤウナ程度デ忍バネバナラヌ時デアリ
マスカラ、私共ハ具サニ其ノ重大ナル意義
ト、重大ナル改革ヲ如何ナル順序ニヤルベ
キカト云フコトニ付キマシテハ、今後大イ
ニ研究モシマスシ、又大イニ文部當局トモ
連絡ヲ致シマシテ、ヨリ良イモノニ年々歳々
進メネバナラヌト考ヘテ居リマス、此
ノ點ハ固ヨリ文部當局モ主義トスル所デ
アリマスガ、以上ハ單ニ陸軍トシテ懷イテ
居ル所ノ考ト申シマスカ、希望ト申シマス
カ、其ノ點ヲ一ツ御諒承ヲ願ヒタイと思ヒ
マス、次ニ御尋ノ青年學校ニ、數校ニ一名
ノ現役者ヲ配當シテ教練ヲシテハドウカ、
學校教練ノ進歩ニ鑑ミテモ著シイモノガア
ルデハナイカト云フ御質疑デアリマスガ、
是ハ全ク其ノ通りデゴザイマス、何トシテ
モ現役將校ニ優ルモノハナイノデゴザイマ
スガ、既ニ御承知ノ通り今日ハ、私共ガ長
野委員ナドト御一緒ニ全國ヲ飛廻ツタ時代
トハ違ヒマシテ、今日此ノ時局ニ於キマシ
テハ、學校其ノモノニ既ニ非常ニ現役將校

ガ減少致シマシテ、主ニ特別志願ノ將校ヲ
以テ充テテ居ルト云フヤウニ、段々ナリツ
ツアルノデアリマス、サウ云フヤウナ狀況
デアリマスノデ、更ニ又青年學校ニ現役將
校ヲ配屬スルト云フコトハ、無論必要ナモ
ノデアリマスガ、軍ノ目下ノ現況ニ於テハ
不可能デアルト云フコトハ、是ハ御諒承ヲ
願フ外ハナイノデゴザイマス、以上御質疑
ニ對シマシテ、私共ハ其ノ主義ナリ、御抱
負ニ對シテハ滿腔ノ贊成ヲ表スルノデアリ
マスガ、唯是ガ實現ノ順序ト、方法ト、時
期ト云フモノニ付キマシテ、大イニ研究モ
要リマスガ、一大奮發心ガ要ルノデハナイ
カト思ツテ居リマス

○長野(長)委員 只今ノ御話ニ依リマシテ
モ、時局柄隨分人ノ問題デ増員等ハ困難デ
アルト云フ御答辯ハ、洵ニ御尤デアリマス、
ソコデ私ハ、是ハ私ノ常識カラ割出シタコ
トデアリマスルケレドモ、隨分下士竝ニ將
校ノ中ニハ、戰傷ノ爲ニ現役ヲ相變ラズ勤
メ得ナイ者ガ、段々其ノ數ヲ増加シテ居ルヤ
ウデアリマス、此ノ戰傷者ニ對スル國民ノ
敬意ト云フモノハ昔日ノ如クデナク、漸次
熱烈ヲ加ヘツツアルノデアリマス、又其ノ
將士ニ致シマシテモ、非常ナ重責ヲ負ウテ、
身命ヲ賭シテ今日ニ來ツテ居ル關係上、普

通ノ場合ヨリモ一層熱烈ナ公共心、熱烈ナ
日本精神ニ燃エテ居ルノデアリマス、ソコ
デ斯ル將士ヲ、相當不具ト言ハレル程ノ程
度ノ人デアリマシテモ、青年學校ノ指導員
トシテ迎ヘマシテ、サウシテ一ハ以テ軍事
教育ニ、又他ハ以テ精神教育ノ訓練ノ方面
ノ擔當者ヲラシメタナラバ、其ノ效果ハ蓋
シ絶大ナモノガアルト考ヘマス、又他面ニ
於キマシテハ、此ノ戰傷兵士ニ對スル敬意
ト云フコトモ、時局斯ノ如キ場合ニ於テハ
勿論熾烈デアリマスケレドモ、日ヲ經ルニ
從ツテ稀薄ニナルト云フコトハ、過去ノ實
例ニ依ツテモ明カデアリマス、然ルニ斯ル
境遇ニアリ、又斯ル精神のニ尊重スベキ方
方ヲ、一郷ノ先生トシテ迎ヘ、次代ヲ受持
ツ國民トナルベキ青少年ノ指導者トシテ立
タシメマシタナラバ、蓋シ青年教育ノ效果
ヲ一層擧ゲ得ルコトハ勿論、又一郷ノ空氣
ヲ高揚シ、又戰功兵士ニ對スル敬意ヲ永ク
保持シメルト云フ意味ニ於テモ、絶大ノ社
會教化的效果ヲ擧ゲ得ルモノデハナイカト
考ヘテ居リマス、私ハ是非トモ此ノ方策ヲ、
一日モ早く實現サレシコトヲ翹望シテ已マ
ス者デゴザイマスルガ、陸軍側トシテ種々
御都合モアラウト思ヒマスルガ、此ノ際御
見解ヲ承ルコトガ出來レバ幸デアリマス

○中村政府委員 只今長野君ノ御指摘ニナ
リマシタ點ハ、私共衷心カラ感謝ヲ以テ拜
聽ヲシタノミナラズ、滿腔ノ贊意ヲ表スル
ニ吝デナイ者デアリマス、若シ夫レ其ノ戰
傷將卒ノ人格ガ高ケレバ高イ程、是ガ青少
年ノ心ノ琴線ニ觸レマシテ、精神教育上大
ナル效果ヲ持來スト云フコトハモウ疑フ餘
地ハナイノデアリマス、現ニ歐洲大戰後ノ
歐米諸國ノ狀況ヲ實見シマシテモ、此ノ點
ハ非常ニ效果ノアツタコトデ、又遠大ナ著
眼ヲ持ツテ居ル國程、此ノ點ニ著意ヲ致シ
マシテ、獨眼者或ハ隻腕、隻脚、サウ云フ
ヤウナ所謂戰傷將士ヲ、只今長野委員ノ申
サレタヤウナ教育方面ニ使ツテ居ルノヲ見
受ケ、其ノ隆々タル國威ヲ今日持來サシメ
タト云フヤウナ國モアルノデアリマス、隨
テ此ノ御提案ニ付キマシテハ、私共ハ滿腔ノ贊
意ヲ捧ゲマシテ、及バズナガラ關係當局トモ交
渉連絡ヲ致シマシテ、獨リ此ノ青年學校ノミナ
ラズ、我國總テノ教育方面ニ、適材ヲ適所ニ
配置スルト云フコトハ、一面カラ見マシテ戰
傷者ニ報ユル途デモアリ、又ソレガ國家ト
シテモ偉大ナル精神の威力ヲ増スト云フコ
トハ、只今御話ノアツタ通りデアリマス、
此ノ點ニ付テハ、寧ロ必成ヲ期シテ御努力
御盡力ヲ吾々ノ方カラモ、御願致シタイと思

フ次第デアリマス、既ニ此ノ點ノ一部ニ付
キマシテハ、及バズナガラ吾々モ研究ヲ始
メテ居ルヤウナ次第デアリマス、ドウゾ一
ツ十分御聲援ヲ賜ラシコトヲ、併セテ此ノ
機會ニ御願シテ置キマス

○長野(長)委員 先般文部大臣ニ御尋申上
ゲタノデアリマスガ、今日ノ青年教育ノ規定
ハ、吾々乏シキヲ此ノ方面ニ享ケタ時代ニ
於テ作ツタモノデアリマスガ、同時ニ青年
團ニ關スル方面ノ規定トシテハ、殆ド青年
學校ニ比ベマシテ見ルベキモノガナイヤウ
ニ思ヒマス、ソコデ青年學校ト青年教育ノ
規定ハ、兩者頗ル其ノ重複ノ點ニ於テ、其
ノ教育徹底ノ上ニ於テ、統制ガ取レナイヤ
ウニナツテ居ルト思ヒマス、又青年學校ノ
規定ニ致シマシテモ、制定當時カラ相當ノ
年數モ經チマスルシ、又時局ガ頗ル變化ヲ
シテ居ルノデアリマシテ、茲ニ東亞新建設
ノ大事業ヲ行フコトニ鑑ミマシテモ、尙更
ニ研究改善スベキモノガ存在スルカノ如ク
考ヘラレルノデアリマス、ソコデ此ノ際青
年團ト青年學校ト一括統一スル青年教育
法ヲ設ケル必要ガアルデハナイカ、サウ
シテ過去ニ於テ勅令トシテ、官吏ノ頭腦カ
ラ割出シテ作ツタモノヲ基調トシマシテ、
之ヲ法律化シ、國民ノ全智全能ヲ傾注スル

ト云フ建前ニ於テ、議會ニ於テ大イニ検討
研究ヲ致シマシテ、サウシテ其ノ制定セラ
レタ青年教育法ノ下ニ、青年團法ト青年學
校法ヲ、ヤハリ同ジ意味ニ於テ作りマシテ、
サウシテ全國民ガ協力シテ之ヲ支援シ、能ク
認識シテ、青年ノ就學出席ノ能率ヲ擧ゲシ
メ、又協力シテ其ノ教育訓練ノ實績ヲ擧ゲ
テ行クヤウニスルコトガ出來タナラバ、洵
ニ一段ノ進歩デハナイカト考ヘル次第デゴ
ザイマス、此ノ點ニ付テ先般文部大臣ハ、
趣旨ニ於テ賛成デアアル、但シ直チニ之ヲ行
フニハ種々ノ困難モアルト云フ御答辯ガア
ツタノデアリマス、陸軍當局ハ事實上ニ於
テ、青年教育トノ關係ガ濃厚デアリマスカラ、
茲ニ陸軍當局ハ之ヲ如何ニ御考ニナルカト
云フコトヲ承リマシテ、若シ御同感デゴザ
イマスナラバ、文部當局ト聯携ヲセラレテ、
之ヲ實現スルニ困難ナル種々ノ事項ハ、一
日モ早く協調シテ除却致シマシテ、サウシ
テ斯ル立憲の新制度ノ實現ヲスルコトニ
御努力下サラシコトヲ御願申上ゲル次第デ
アリマス、尙ホ若シ青年教育制度ニ於テ、
此ノ法律制度ノ端ヲ開クコトガ出來マシタ
ナラバ、更ニ今ヤ革新期ニ入ツテ居リマス
我ガ文教全體ノ立憲の再建設ト云フモノガ
出來ル次第デゴザイマシテ、洵ニ彼此相校

量致シマシテ、一日速ニ實現シナクテハナ
ラスコトト考ヘラレル次第デゴザイマス、
此ノ點ニ關スル御見解ヲ承リ、若シ又御贊
成ナラバ、一日モ早く實現スベク御努力サ
レタラ如何デアラウカト云フコトニ付テ、
御答辯ヲ御願スル次第デアリマス

○中村政府委員 本件ハ文部當局ノ主宰セ
ラレル所デアリマスノデ、實ハ御答辯モ御
遠慮スベキガ至當カト思ヒマスガ、御熱心
ナル御研究ト御熱意アル御要求デアリマス
ノデ、大イニ敬意ヲ拂フベキガ至當カト思
ヒマスカラ、私カラモ一言申上ゲルコトニ
致シマス、惟フニ最近ノ大日本聯合青年團
ノ理事アタリノ事モ、文部省ガ御改正ニナリ
マシテ、陸海軍カラモ理事ヲ入レタト云フ
ヤウナコトハ、今マデ其ノ例ヲ一寸記憶シ
テ居ラスヤウナコトデゴザイマス、不肖私
モ其ノ理事ノ一人トシテ席ヲ汚スコトニナ
リマシテ、爾來日ハ淺イノデゴザイマスガ、
聊カ此ノ聯合青年團ナルモノノ空氣ニモ觸
レマシテ、嘗テ手ヲ取ツテ長野委員其ノ他ノ
各位ト研究致シマシタ、青年學校ノ前身デア
ル實業補習學校ナリ、或ハ青年訓練等ト折角
彼此相關聯シマシテ、研究ヲ積ンデ居ルヤウ
ナ次第デアリマス、一ニ是ハ主務省デアアル文部
省ノ指導方針ニ從ヒマシテ、又我ガ軍部ノ意

見モ十分申上ゲマシテ、前申上ゲマシタ通
リ、青年教育ノ重大ナル意義ニ關シマシテ
ハ、是ハモウ國ヲ擧ゲテ御認識ノコトト思
フノデアリマス、此ノ際今御指摘ノヤウ
ニ、一層其ノ認識ヲ深刻ニ致シマシテ、ヨ
リ良キモノニセヨト云フコトノ御話デアリ
マスノデ、吾々モ昨ヨリモ今、今日ヨリモ
明日ヘト、斯ウ云フヤウニ漸進ヲスルコト
ニ付キマシテハ、及バズナガラ勇氣ト努力
トヲ持ツテ進マナケレバナラスモノト考ヘ
テ居ルノデアリマス、留マツテ居ル水ハ腐ル
ノデアリマスカラ、文部當局ノ御指導ガ、現
大日本聯合青年團等ニ對スル一端ヲ見マシ
テモ、決シテ現状ヲ以テ御満足ニナツテ居
ルモノデハナイト云フコトハ、私共モ能ク
感じテ居リマスカラ、大イニ手ヲ握リ腕ヲ
組ンデ進マウト考ヘテ居ル次第デアリマス、
大體此ノ位シカ私トシテハ申上ゲラレナイ
ノデアリマス、御諒承ヲ願ヒマス

○長野(長)委員 洵ニ御親切ナ御答辯ヲ戴
キマシテ満足致シマシタモウ一ツ御願致シ
マスルコトハ、陸軍當局ノ御指導宜シキヲ
得テ、今ヤ青年學校ニ於ケル軍事教練ノ事
業ハ著々進展ヲ致シ、國民モ満足ヲ表シツ
ツアルノデアリマス、併シナガラ更ニ一段
ノ效果ヲ擧ゲマス爲ニハ、ヤハリ指導員ノ

尊重——所謂教權ノ尊重確立ト云フ意味カラシマシテ、是等指導員ニ對シテ再教育ト申シマスルカ、公民教育ナリ、或ハ軍事專門教育ナリ、當局トシテ必要ト御認ノコトガ少クナイト思ヒマスルガ、ソレ等ノ點ノ講習會等ヲ開カレマシテ、一層其ノ人格ノ陶冶ト技術ノ向上トヲ圖ラレ、又一面ニ於キマシテハ從來ノ生活ト一時變化ヲ來シテ教育界ニ身ヲ投ジテヤルコトデアリマスルカラ、動モスレバ他人ノ家ニ入ツタヤウナ氣分モナイデハナイト思ヒマス、ソコデ陸軍當局トセラレマシテハ、勿論今マデ非常ニ指導監督ノ能率ヲ學ゲラレテ居ルト云フコトハ私承知シテ居ルノデゴザイマスケレドモ、尙ホ一段ト指導員ノ謂ハバ味方ニナラレマシテ、自由ニ安心シテ職務ノ遂行ノ出來マスルヤウニ格別御盡力ヲ願ヒタイト存ジマス、是ハ別ニ御質問ヲ申上ゲル譯デアリマセヌ、私ノ希望トシテ申上ゲマシテ何分ノ御配慮ヲ願フ次第デアリマス

○野村委員長 ソレデハ長野高一君

○長野(高)委員 私ハ努メテ當面ノ問題ニミ局限シテ御尋致シタイト存ジマス、本案ノ審議ニ當リマシテ、先ヅ私ハ此ノ青年學校教育ノ義務制ナルモノガ、現在ノ儘ノヤリ方デ唯義務制ニスレバ宜シイノダト云フ

今回ノ當局ノ御方針デアリマスルト、果シテ所期ノ效果ヲ擧ゲ得ルヤ否ヤト云フコトニ多大ノ疑念ヲ懷イテ居ル者デアリマス、寧ロ私ハ心配ヲシテ居ル一人デアリマス、御承知ノ如ク現在ノ青年學校ノ前身デアリマシタ實業補習學校ニ致シマシテモ、或ハ又青年訓練所ニ致シマシテモ、各、其ノ過去ノ歴史ハ失敗ニ終ツテ居ルノデアリマス、更ニ又此ノ兩者ヲ統合致シマシタ現在ノ青年學校ニ致シマシテモ、創設以來三箇年間ノ實績ヲ見マスルト、是亦遺憾ナガラ失敗ナリト言ハザルヲ得ヌ實情ニアルノデゴザイマス、而モ青年訓練所創設以來、多數ノ青年ニ對シテ一種ノ吸引力ノ役割ヲ果シテ居ツタカノヤウニ思ハレマシタ在營期間ノ短縮ト云フ特典ガ、先般ノ兵役法ノ改正ト共ニナクナツテ居リマスル現在ノ青年學校ト致シマシテハ、今後單ナル純粹ノ教育的內容ノ力ノミニ依ツテ、多數ノ青年ヲ惹付ケテ行カナケレバラスコトニナリマスルト、現在ノ内容ヲ以テ果シテ其ノ目的ガ達シ得ラレカドウカト云フコトハ、私ハ餘程御考ヲ願ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、私ハ必ズシモ一律ニ青年學校全體ガ失敗シテ居ルト申スノデハナイノデアリマシテ、先刻同僚カラモ御話ガアリマシタウヤ

ニ、或ル地方ニ於キマシテハ相當是ガ重寶ニ今日ナツテ居リマセウ、併シ少クトモ私共ガ知ル範圍ニ於キマシテハ、大都市ニ於ケル青年學校ノ現狀ト云フモノハ洵ニ憐レナモノデアリマス、私ハ先達テ當局ニ、大都市ニ於ケル青年學校ノ特異性ニ付テ資料ノ御提供ヲ願ツテ置イタノデアリマスガ、マダ今日手許ニ參ツテ居リマセヌカラ、的確ナコトハ申上ゲラレマセヌガ、唯當局ニ於キマシテハ昨年ノ十月ニ、此ノ青年學校ノ義務制ニ備ヘル爲ニ、相當多額ノ金ヲ投ジテ青年ノ實態調査ト云フモノヲヤツタノデアリマス、此ノ調査ニ依リマルト、東京ニ於キマシテハ昨年十月現在デ十二歳カラ十九歳、即チ所謂青年層ニ屬スル所ノ若者ガ六十一万五千二百七十四人デアリマス、而シテ青年學校入學ノ該當者ハドレ位デアルカト申シマス、三十六万九千七百二人デゴザイマス、然ルニ現在東京市内デ青年學校ニ籍ヲ置イテ居ル者ノ數ガドレ位デアルカト申シマス、三万三千四百四十人、即チ青年學校入學ノ該當者ノ一割ニ足リナイト云フ實情ニアルノデゴザイマス、當局ハ此ノ現實ノ數字ノ前ニ立ツテ、義務制ハ布クケレドモ今マデノ學校ノ設備モ其ノ儘デ宜シイ、或ハ教職員モ其ノ儘デ宜シイ、教育ノ内

容モ今マデ通りデ宜シイ、唯義務制ヲ以テ「カバ」スル、ソレデ宜シイノダト云フヤウナコトデアリマスルト、ドウシテ餘ノ九割強ノ此ノ未就學ノ青年ヲ收容スルコトガ出來ルデアリマセウ、私ハ是ハ中々困難ノコトデアルト思フノデアリマス、假令國家ガ法規デ之ヲ強制致シマシテモ、成程就學者ノ數ヲ増加スルト云フコトハ出來マセウ、併シナガラ之ニ依ツテ出席率ヲ伴ハスト云フコトハ私ハ困難デナイカト思フノデアリマス、否出席者ヲ強制スルコトハ出來マセウ、併シナガラソレニ依ツテ實效ヲ擧ゲルト云フコトハ中々困難ナコトデナイカト思フノデアリマス、一體今回國ガ法規ノ上デ義務トシテ青年ニ強制致シマスル以上ハ、モウ少シ私ハ此ノ内容ノ御檢討ガ必要デハナカツタカト思フノデアリマシテ、無理ニ引張ツテ來ル譯ニ行カヌノデアリマス、義務ト致シマスル以上ハ、向フカラ欣シデ、青年ヲシテ青年學校ニ集マラシムルヤウニナサルコトガ私ハ爲政者ノ務デナイカト思フノデアリマス、此ノ點篤ト御考ヲ願ヒタコトノ必要ニ付キマシテハ、昨年ノ七月十五日ニ教育審議會カラ答申ニナツテ居リマスモノヲ見マスルト、其ノ中ニ斯ウ云フコト

ガ書イテアリマス、人生ノ修養期ニ直面スル青少年ニ對シ、其ノ最モ大切ナル時期ニ於テ教育ヲ繼續セシメテ間隙ヲ與ヘザルコトガ目的デアツテ、隨テ教育ノ内容モ、國體ノ本義ニ基イテ人格ヲ陶冶シ、其ノ職業及ビ實生活ニ即シテ教育ヲ施シ、以テ産業ノ開發、地方ノ更生ニ寄與スルト共ニ、國民精神ヲ振作シ、體位ノ向上ヲ圖ツテ國防ノ根基ヲ培フトアルノデアリマス、是ハ固ヨリ當然デアリマシテ、先般モ此ノ委員會ニ於キマシテ文部大臣ガ仰セニナリマシタヤウニ、此ノ日本ノ青年學校ハ何處ノ國ノ制度モ眞似タノデハナイ、日本獨得ノモノデアルト云フコトヲ御話ニナリマシタ、洵ニ私ハ是ハ結構ナコトデアルト思フノデアリマス、併シ此ノ青年學校ヲ義務制ニスルト云フコトハ、ソレダケノ理由デハナイト思フノデアリマス、即チ今回ノ事變ノ刺激ニ因ツタモノデアルト云フコトニ依ツテ、初メテ本案ノ價值ガ生ジテ來ル、又同時ニソコニ重大ナル意義ヲ認メルコトガ出來ルト思フノデアリマス、即チ今後ノ戰ハ最早兵力ノミノ戰デハイカス、即チ銃後ニ於ケル敵味方ノ國民ト國民トノ戰デアル、國民的總動員ノ戰デアルト云フコトハ、今回ノ事變ノ經驗ニ依ツテモ吾々ハ明ニ之ヲ知ル

コトガ出來ルノデアリマス、即チ國家總動員法ノ基礎工作トシテ、青年學校ノ義務制ノ必要ガ緊急ニ迫ラレテ、之ニ依ツテ將來初メテ人的資源ノ整備ヤ、國民體位ノ向上、或ハ體力ノ向上、或ハ産業計畫ト生産力ノ擴充等ガ企テ得ラレルノデアリマス、少クトモ次ノ時代ヲ擔當シナケレバナラス所ノ青年ニ對シテ、青年學校ノ義務ヲ課スルシ、サウシテ青年ヲ國家管理化シマシテ之ヲ保護シ、或ハ教育スルト云フコトハ、寧ロ日本人ノ利益ト云フヨリモ、國家ノ必要ガ要求シテ居ルト考ヘナケレバナラスト思フノデアリマス、サウ云フコトデアリマスルト、モウ少シ今回ノ制度ヲ御立テニナルニ當リマシテハ、國家自身ガ深く御考慮ニナルベキデアツタト思フノデアリマス、即チ先頃ノ兵役法ノ改正ニ依リマシテ、從來與ヘラレテ居ツタ青年學校修了者ノ在營期間ノ短縮ト云フヤウナコトガ無クナツタト云フコトハ、即チ今日ノ歩兵裝備ト云フモノガ非常ニ變ツテ居ルカラデアアル、即チ機械化シ、或ハ複雑化シテ、他ノ兵種以上ニ此ノ歩兵ノ裝備ト云フモノガムジカシクナツテ來テ居ル、デアリマスカラ從來ノ如ク僅ニ青年學校ニ通ツテ教練ヲ受ケタ位デハ、最早半年ノ在營期間ヲ短縮スルト云フ

コトハ到底出來ナイ、寧ロソレ以上ニ入營以前、或ハ適齡以前ノ青年ニ對シマシテ、相當長期間ニ亙ツテ十分ナル教練ヲ施サナケレバナラス、即チ是ガ所謂國家總動員法ノ體制ノ基ニナルノダト考ヘマスル時ニ、此ノ青年學校ト云フモノノ制度ヲ御立テニナルニ付テハ、國家ガ十分御考慮ニナツテ、其ノ效果ヲ舉ゲルコトニ御努力ヲナサルベキデアツタト私ハ考ヘルノデアリマス、然ルニ今回ノ當局ノ態度ヲ見マスルト、餘リニモ退嬰的ダ、餘リニモ豫算ヲ御計上ニナルニ付テモ御遠慮ガ過ギタノデハナイカト云フ風ニ考ヘラレルノデアリマス、私ハ此ノ青年教育ニ對シテ國家ノ金ヲ御使ヒニナル其ノ效果ト云フモノハ、決シテ直接豫算ノ上ニ現ハレマシタ國防費ノソレニ比ベテ劣ルモノデハナイ、廣義國防ノ見地カラ考ヘマシテモ、ソレト同等ノ效果ガアルト考ヘラレルノデアリマス、ソコデ先程モ申上ゲマシタガ、主トシテ私ハ大都市ノ立場ト云フ點カラ、此ノ青年學校ノ經營、今後ノ見透シニ付テ考ヘテ見タイノデアリマスガ、是ハマダ資料ガアリマセヌカラ十分ナコトハ申上ゲラレマセヌガ、大體ニ於テ六大都市ヲ初メト致シマシテ、大都市ニ於ケル青年學校ノ經營ト云フモノハ東京ト同

ジモノデアアル、同じ道ヲ歩ンデ居ルモノデアルト考ヘテモ差支ナイト思フノデアリマス、ソコデドウ云フ點ガ然ラバムジカシイカト申シマス、先ヅ第一ニ考ヘナケレバナラスコトハ、青年學校ノ對象トナル青年ハ、都會ニ於キマシテハ何レモ地方カラ集マツテ來タ所ノ奉公人デアリマス、都會ニ於ケル家庭ノ子供ハ、如何ニ親ガ貧乏致シテ居リマシテモ、親ハ食フ物ヲ食ハナクテモ子供ダケハ一人前ノ教育ヲ受ケサセタイト云フ熱心ナル考カラ致シマシテ、大體中等學校、或ハ晝間ノ學校ニ通ハセルコトガ出來ナケレバ夜間ノ中學ニ通ハスト云フヤウナコトヲヤツテ居リマスノデ、青年學校ノ生徒ハ大體ニ於テ地方カラ出テ來タ奉公人、即チ使用人ト見テ差支ナイノデアリマス、而シテ是等ハ晝間從事致シテ居リマス職業モ全ク千差萬別、千態萬樣デアリマシテ、此ノ實社會ニ立ツ所謂實務青年ヲ惹付ケルト云フコトニ付キマテハ、私ハ職業的ニモ、職業教育ト云フコトニ付テモ餘程考ヘナケレバ生徒ガ集マツテ來ナイノデハナイカト考ヘテ居ル、是ガ即チ都會ニ於ケル青年學校經營ノ一ツノ惱ミデアアル、ソレカラモウ一ツハ青年自身ノ境遇ト云フコトモ非常ニ同情スベキモノガアルノデアリマス、青年

學校が義務制ニナツタカラト云ツテ、大威張デ學校ニ通フヤウナ境遇ノ者ハナイノデアリマス、都會ニ於ケル大工場、大商店或ハ「デパート」ト云フモノハ別デアリマシマス、ソレヲ除ク大多數ノ小サナ商店ヤ工場デハ、單ナル主人ノ奉公人デアリ、使用人デアツテ、親戚デモ縁者デモナイ、唯田舎カラ出テ來タ奉公人デアル、僅カナ給料デ朝カラ晩マデコキ使ハウト云フ目的デ雇入レテ居ル、此ノ青少年ヲ、本當ニ心カラ欣ンデ青年學校ニ通ハスト云フ理解アル主人ト云フモノハ洵ニ少イノデアリマス、斯ウ云フ主人ニ氣兼遠慮ヲシテ學校ニ通ハナケレバナラス青年ハ洵ニ氣ノ毒ナノデアリマス、此ノ點ニ付テモ都會ニ於ケル青年學校經營ノ惱ミガアルト私ハ考ヘル、又學校ノ通學時間ニ致シマシテモサウデス、其ノ職業ニ依リマシテハ、朝ガ宜シイト云フ者モアリマス、晝間ガ宜シイト云フ者モアリマセウ、晩ニシテ吳レト云フ者モアルノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付キマシテモ非常ニ困難ガ伴フヤウナ實情ニアルノデアリマス然ルニ現在サウ云フ氣ノ毒ナ青年ガ通ツテ行ク學校ノ有様ハドウデアルカ、又考ヘナケレバナラスノデアリマスガ、現在東京市ニ例ヲ取ツテ見マスト、公立ノ青年學校

ハ、百九十三校アリマス、此ノ百九十三ノ學校ハ悉ク小學校ニ併設ヲサレテ居ル、併設ト申シマスルヨリモ、小學校ニ居候ヲシテ居ルト云フ實情ニアルノデアリマス、而モ晝間ハ商店ノ主人ノ前デ、或ハ工場ノ監督ノ光ル眼ノ前デ小サクナツテ働イテ居ル、此ノ青年ガ夜間學校ニ通フト、其ノ學校ノ設備ハドウデアリマスカ、何カラ何マデ自分ノ身長ニ合フモノハ一ツモナイ、机ニ致シマシテモ、腰掛ニ致シマシテモ、小サナ子供ノ腰掛ノ上ニ折敷ノ櫛ヘデ每晚苦シメラレテ居ルト云フノガ、現狀デアリマス、斯ウ云フコトデ何ヲ以テ體位ノ向上ト言ヘルデセウカ、是ガ現在ノ大都市ニ於ケル青年學校ノ設備ノ現狀デアリマス、又教育ノ内容ニ致シマシテモ其ノ通りデアリマシテ、現在東京ニ於キマシテハ、青年學校ノ教育ニ從事ヲ致シテ居リマス教職員ノ數ガ二千二百三十五人トナツテ居ルノデアリマシマス、其ノ中ノ專任教員、即チ主トシテ職業ヲ補導スル任ニ當ル專任教員ノ數ハ僅ニ三百二十三人デアリマス、而モ青年學校ノ專任教長ハ僅ニ三人シカ居ラス、斯ウ云フ風ニ大多數ノ教職員ト云フモノハ、晝間小學校ノ先生ヲ勤メテ居ル、即チサウ云フ人々ノ片手間デヤツテ居ルノデアリマシテ、而モ

其ノ給料手當ハドレ位支給サレテ居ルカト申シマス、先ヅ一番大切ナ職業補導ノ專任教員ノ月給ハ五十三圓デアリマス、五十圓ト云フ金ハ、東京ニ於キマシテハ小學校教員ノ平均給ヨリモマダ安イノデアリマス、中等學校ノ先生ダト云フコトハホンノ形式、名バカリデアリマシテ、實際ノ待遇ハサウ云フ風ナ狀態ニアルノデアリマス、而シテ此ノ二千二百三十五人ト云フ大多數ノ、業務ヲヤツテ居ル先生ノ手當ハドレダケデアルカト申シマス、月額五圓乃至十五圓ト云フヤウナ實情ニアルノデアリマス、又是ハ聞ク所ニ依リマス、全國デ一番東京ガ待遇ガ宜シイ、地方ニ參リマス、月額二圓ト云フヤウナ所モアルサウデアリマス、ソレデハ殆ド夜食ノ蕎麥代ニモ足ラスト云フヤウナ實情デアリマス、而モ今日小學校ノ先生ハ、相當小學校ノ教育ダケデモウ重荷ニナツテ居ル、此ノ重荷ヲ背負ツテ居ル先生ニ多ク望ムト云フコトハ、望ム方ガ無理ナノデアリマス、隨テ青年學校教育ノ内容ハ推シテ知ルベシト云フコトガ出來ルト吾々ハ考ヘルノデアリマス、斯様な狀態デアリマスノデ、實ハ各都市ノ當局ト致シマシテモ、今度ハ青年學校ハ義務制ニナルノダカラ、義務制ニナル以上ハナリ

バエノアルヤウニシナケレバナラスト云フノデ、相當經費ヲ計上致シマシテ、サウシテ改善ヲ圖ラウト皆考ヘテ居ツタノデアリマセウ、然ルニ之ヲ理想通り改善致シマスノニハ莫大ナル經費ガ掛リマス爲ニ、思フバカリデ、中々實行ニ著手スルコトガ出來ナイ折柄、今回又此ノ義務制ノ實施ト云フコトニナリマシタノデ、今後之ニ依ツテ今マデノ何層倍ト云フ多額ノ經費ヲ支出シナケレバナラス實情ニ置カレテ居ルノデアリマス、先般田中社會教育局長デアリマス、カ「AK」カラ放送ヲセラレタノヲ私偶、聽取シタノデアリマスガ、十四年度カラ青年學校ノ義務制ヲ實施スルケレドモ、ソレニ依ツテ急激ニ地方ノ團體ニ經費ノ迷惑ヲ掛ケルトハナイト云フヤウナ御話デアリマシタ、此ノ四百三十萬圓ガドウ云フ風ニ配當サレマス、此處ニ書類ガ廻ツテ來マシタガ、マダ内容ヲ拜見シテ居リマセヌカラ十分分リマセヌケレドモ、是レ位ノ金ヲ御配付ニナツタ所デ、今申シマシタ「ラヂオ」放送ノヤウナコトニナラスト私ハ思フ、先般ノ表ヲ見マス、成程或ル地方ニ依リマシテハ、十四年度カラ實施サレル所ノ普通科入學ニ該當スル青年數ノナイヤウナ所モアリマス、併シ都會ニ於キマシテハ全然反對ノ現

象ヲ呈シテ居ルノデアリマシテ、非常ニ激増シテ居ルノデアリマス、之ヲ收容スルダケデモ相當金ガ掛ル、況ヤ義務制ニシタノダカラ、法律ノ力デ、無理ニ入ツテ呉レト云フノデナク、進ンデ義務トシテ彼等ガ入ツテ來ル爲ニハ、相當ノ内容ノ改善ヲシナケレバナラス、改善ヲスルニハ莫大ナル金ガ掛ルト云フ實情ニアルノデアリマス、先刻モ申上ゲマシタガ、私ハ斯ノ如キ劃期的、歴史的ノ事業ヲ斷行セラレヨウト致シマスニハ、モウ少シ文部當局ニ於カレマシテモ、十分ナル御用意、十分ナル勇氣ト申シマスカ、格段ノ御努力ガ必要デアツタト思フノデアリマスガ、ソレガ足りナカツタト云フコトハ色々ノ點ニ現レテ居リマス、現ニ昨日モ庄司君カラ御話ガアリマシタヤウニ、斯様ナ仕事ヲナサルノニハ、昨日今日御計畫ニナツタノデハナイノデアリマシテ、昨年一月十一日ノ閣議ニ於キマシテ、十四年度カラ青年學校ヲ義務制デヤツテ行カウト云フコトヲ御決定ニナツテ居ルノデアリマスカラ、斯様ナコトガ閣議デ決定致シマシタ以上ハ、直チニ地方公共團體ガ豫算ヲ編成スルニ付デモ、内務省當局ト十分御打合ニナリマシテ、青年學校ノ豫算計上等ニ付テハ出來ルダケ援助シ、便利ヲ圖ルト云フ御話ガアツテ然ル

ベシト考ヘルノデアリマス、現ニ地方公共團體ニ於キマシテハ、十四年度カラ青年學校ノ義務制ガ布カレルニ付テハ、ドレ位國ガ補助サレルデアラウ、或ハドレ位地方團體ガ負擔シナケレバナラスノダラウカ、ドレ位命令其ノ他ニ依ツテ設備改善ニ付テノ負擔ガ増スデアラウカト云フコトニ付キマシテ、屢々當局ニ御打合ニ來タ答デアリマス、然ルニ文部當局ノ態度ガ御決定ニナリマセヌ爲ニ、荏苒日ヲ過シテ、豫算編成ニ當ツデ非常ナル支障ヲ來シテ居ル、而モ本年度ハ特ニ例年ト異ツテ内務省ガ非常ニヤカマシカツタ、豫算ヲ編成スルニ付テハ出來得ル限り追加豫算ヲ避ケナケレバナラス、當初豫算ニ分ツテ居ルモノハ悉ク組マナケレバिकासト云フ示達ガアツタノデアリマス、ソコデ已ムヲ得ズ各地方ノ公共團體ニ於キマシテハ、青年學校ノ費用ハ前年通り計上シテ、サウシテアトハ追加豫算デ之ヲヤラウト云フコトニナツタ、現ニ東京ニ於キマシテモ——東京ダケデハアリマセヌ、六大都市ニ於キマシテ非常ニ今困ツテ居ル間題デアリマスガ、斯様ナ相當巨額ナ追加豫算ヲ必要トスル青年學校ノ豫算ハ、追テ追加デ要求シヨウト云フコトデ、餘裕ノアル豫算ヲ組ンデ内務省ノ方ニ出シタ、所ガ内

務省ノ地方局ニ於テモ、青年學校ト云フコトハ全然考ヘテ居ラス、是ハ非常ニ彈力性ノアル豫算デアルカラト云フノデ、今回ノ遊興稅ノ如キ或ハ歡興稅ノ如キ問題ニ付キマシテハ、是ハ六大都市ニハ交付金ヲヤラウ、彈力性ノアル豫算ヲ組ンデ居ルカラ必要ガナイ、斯ウ云フ風ナ見解カラ、只今ノヤウナ問題ガ起キテ困ツテ居ル、是ナドハモウ少シ早ク文部省御當局ガ、來年度ノ青年學校ノ豫算ハ是レ位君ノ方ノ都市ニ於テモ必要ナノダト云フ態度ヲ御示シナリマスレバ、サウ云フ風ナ今日ノ惱ミニハ到達シナイ實情ニアツタノデアリマスガ、斯ウ云フ點ニ付キマシテモ、私ハ非常ニ遺憾ニ存ジテ居ルヤウナ次第デアリマス、ソコデ私ハ只今申上ゲマシタコトニ付テ、別ニ御答辯ガ必要ト致シテ居リマセヌガ、斯ウ云フコトヲ前提ト致シマシテ、都市ニ於ケル青年學校ノ義務制實施ハ今後如何ニ困難ナ間題デアルカト云フコトヲ御認識戴キマシテ、次ノ質問ニ對シテ御答辯ヲ得タイノデアリマス

第一ニ御伺致シタイコトハ、此ノ青年學校ノ義務制實施ニ依リマシテ、産業ニ及ボス影響デアリマス、即チ十二歳カラ十九歳ニ至ル此ノ青少年ニ對シテハ、否デモ應デモ青年學校ニ通ハナケレバナラス義務ヲ負フノデアリマスカラ、斯ウ云フ風ナ徒弟ヲ使用致シテ居リマスル所ノ商店ナリ工場ナリハ、兎ニ角仕事ノ上ニ於テ相當能率ヲ減殺サレルト考ヘルノデアリマス、無論教育ガ産業ノ上ニ齎ス效果ト云フコトニ付キマシテハ、十分認メナケレバナラスノデアリマスルガ、マダ——現在ノ小サナ商店或ハ中位ノ工場ノ主人ト云フヤウナ者ガ、ソコマデノ理解ヲ持ツト云フトハ難カシイノデアリマス、況ヤ現在ノ青年學校ノ教育ノ内容ト云フモノガ、投資ニ値スル程ノ價值ヲ持ツテ居リマスレバ是ハ別デアリマスガ、私ハ是ハ難カシイト思フ、餘程ノ努力ヲ爲スニアラザレバ、ソコマデノ效果ヲ擧ゲ得ラレナイト考ヘテ居ルノデアリマス、サウ云フ風ナ實情ニアル今日ト致シマシテハ、ソコニサウ云フ青年學校ニ通ハナケレバナラス義務ヲ背負ツテ居ルヤウナ徒弟ヲ使フコトハ不利益デアルト云フ考ヲ持ツノデハナイカ、然ラバサウ云フ風ナ境遇ニ在ル徒弟ガ奉公ニ行キタイト思ウテモ、サウ云フ義務ヲ背負ツテ居ル爲ニ使ツテ呉レナイト云フヤウナ、徒弟自身ノ惱ミモアルノデハナイカト考ヘルト同時ニ、ソレニ依ツテ産業上相當ナ影響ヲ受ケルノデハナイカ、斯

ウ云フコトモ考ヘラレルノデアリマス、即チ青少年ノ勞働條件ヲ惡クスル對策ニ付テハ、ドウ云フ御考ヲ持ツテ居ルカト云フコトト、其ノ爲ニ女子ノ青少年ト云フモノガ勞働市場ニ進出シテ來ルノデハナイカト考ヘル、果シテサウ云フコトガ實現スルト致シマスナラバ、即チ女子ノ保健問題、或ハ我國古來ノ美風ヲ破壞スルト云フヤウナコトモ考ヘラレルノデハナイカト思フノデアリマス、之ニ對スル當局ノ御考ヲ承リタイノデアリマス

ソレカラモウ一ツハ、先刻申上ゲマシタヤウニ、都會ニ於ケル大多數ノ青少年ト云フモノハ、地方カラ出テ來タ所ノ奉公人デアリマスルカラ、之ヲ氣持良ク通ハスヤウニシテヤルノニハ、ドウシテモ之ヲ使用致シテ居リマスル主人ノ理解ガ必要ニナリマスルガ、唯是ガ道德上ノ問題トシテ解決ガ出來ルカドウカト云フコトニナルノデアリマス、私ハ此ノ義務制ノ圓滿ナル效果ヲ舉ゲマスルノニハ、勢ヒ使用人ニ對スル強制力ヲ持タケレバナラヌノデハナイカト考ヘルノデアリマス、之ニ付キマシテハ如何ナル御考ヲ持ツテ居ルノデアリマセウカ、現在ノ規定デ參リマスルト、青少年ニ對シテ義務制ガアルノデモアリマセヌ、又主人

ヲ強制スル所ノ力モナイノデアリマス、唯都會デ申シマスルト、其ノ青少年ガ遠方カラ來テ居ルノデアリマスルカラ、遠隔ノ地ニ在ル保護者、即チ父兄ニ其ノ義務ガアルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスルガ、是デハ大イニ不自由ガアルノデハナイカト思ハレマスノデ、ドウシテモ是ハ使用人自身ニ對シテ義務ヲ負ハスト云フ規則ニシナケレバナラヌノデハナイカト思フノデアリマス、若シサウ云フコトデアリマスレバ、是ハ勞働保護ニ依ル所ノ社會立法デ行クノガ宜シイノカ、即チサウ云フ風ナ所謂勞働時間ノ制限ト云フ、一律的ノ規則ニ依ツテ全體ノ時間數ヲ決メルコトガ適正デアアルノカ、或ハ所謂教育法規トシテ、單ニ此ノ年齡ニ該當シテ居ル青少年ノ勞働時間ノミヲ制限シテ、之ヲ保護スル方ガ宜シイノデアアルカ、之ニ對シテ御當局ノ御見解ヲ承リタイト思フノデアリマス

ソレカラモウ一ツハ、此ノ書物ヲ拜見致シマスルト、教育審議會デモ相當問題ニナツタヤウデアリマスルガ、今回ノ規則デ參リマスルト、現在ノ高等小學校モ、又青年學校ノ普通科モ併セテ存置シテ行クト云フ御方針デアアルヤウデアリマスガ、茲ニ相當矛盾ガ起キテ來ルノデアリマス、即チ高等

小學校ヲ卒業致シタ者ハ、普通科ハモウ行カヌデ宜シイ、青年學校ノ本科ニ入學サスト云フコトニナツテ居ル、所ガ今回ノ青年學校ノ普通科ノ教授時間ハ、從來ハ一箇年百八十時間以上トナツテ居ッタノガ、二百

十時間以上ト云フコトニナツテ居ルト思ヒマス、所ガ高等小學校ハドウデアアルカト申シマスルト、少クトモ其ノ五倍ノ約千百時間ヲ教ヘルコトニナツテ居ルノデアリマス、即チ青年學校普通科ノ五倍ニ當ル所ノ教育ヲ受ケテ來タ、而モ晝間正式ニ受ケテ來タ所ノ高等小學校ノ卒業生ト、其ノ五分ノ一ノ勉強シカシテ來ナカッタ、即チ晝間仕事ヲシテ片手間デヤツテ來タ青少年ト同ジ教室、即チ青年學校本科ト云フ同ジ教室ニ入レテ、同ジヤウナ教育ヲヤツテ行クト云フコトデ、私ハ其處ニ矛盾ガ起ルノデハナイカ、即チ今日ハ高等小學校ヲ卒業シタ者ノ方ガ多イノデアリマスカラ、サウ云フ多イ所ノ、而モ餘計勉強シタ者ト、少シシカ勉強シナイ少イ者ヲ一緒ニ入レテ教育スルト云フコトハ、其處ニ非常ナ矛盾ガ生ジ、困難ガ伴ツテ來ルノデハナイカト思ヒマス、之ニ付キマシテハ、年來ノ懸案トナツテ居リマスル所謂義務教育ノ年限延長ト云フコトニ依ツテ、私ハ解決スルト思フノデアリマスガ、

斯ウ云フコトニ付キマシテ御當局、殊ニ文部大臣ハ如何ナル御考ヲ懷イテ居ラルルノデアリマセウカ、此ノ機會ニ承ツテ見タイト思フノデアリマス

ソレカラモウ一ツハ、青年學校ノ義務制ノ目的ハ餘リ學力ニハ重キヲ置カナイデ、所謂適齡前ノ滿十九歲マデノ者ニ教育ヲ繼續セシムルト云フコトガ此ノ中ニ書イデアル、是ガ精神ノヤウニ思フノデアリマスガ、サウ云フコトデアリマスルト、尋常小學校ヲ卒業シマシテ直チニ短期ノ中等學校ニ入ツタ者、即チ現在ノ中學校デモ十七歲デハ卒業シテ居ルノデアリマスガ、ソレヨリモマダ短期ノ中等學校或ハ實業學校ニ入リマシテ、之ヲ卒業シタ者ハ、勿論青年學校ニ入ラスデモ宜イト云フコトニ今度ノ規則デハナルノデアリマスガ、サウ云フコトデアリマス、十九歲マデノ間相當期間、全然教育ヲ繼續セシムルコトガ出來ナイコトニナルノデアリマスガ、斯ウ云フコトニ付テ何カ御對策ヲ講ジテ居ラレルノデアアルカ、此ノ點モ承リタイト思フノデアリマス

モウ一ツハ、何ヲヤルニ付キマシテモ金ガ先ニ立ツノデアリマス、現在ノ都會ニ於ケル青年學校ヲ本當ニ社會ノ要求スルヤウニ改善ヲ施スニ付キマシテハ、到底地方團

體ニ於テハ背負ヒ切レヌ程ノ經費ガ要ルノ
デアリマスカラ、當面ノ問題トシテ、如何
ニシテ最小ノ經費デ最大ノ效果ヲ擧ゲ得ル
カト云フコトヲ考ヘナケレバナラスノデア
リマス、ソコデ私ハ御尋致シタイコトハ設
備ノ問題、先刻モ申上ゲマシタヤウニ、晝
間一生懸命働イテサウシテ通フ學校ガ、何
モカモ自分ノ身長ニ合ハナイ、小サナ坊ヤ
ノ使フ物バカリヲ使ヒ、坊ヤノ腰掛デ折敷
ノ構ヘヲシテ苦シメラレルト云フコトハ、
義務制ト同時ニ絶對ニ廢シタイト思フノデ

云フコトモ、一部デ言ハレテ居ルノデアリ
マスガ、ソレハ別ト致シマシテ、兎ニ角此
ノ機會ニ比較的餘裕ノアル府縣ニ向ツテ、
此ノ義務制ヲ負ハスコトガ必要デハナイカ
ト思フノデアリマス、サウ云フコトニ致シ
マスレバ、比較的餘裕ノアル府縣ガ管理シ
テ居ル中等學校ノ營造物、或ハ設備ヲ之ニ
充テシメ得ルノデハナイカト思フノデアリ
マス、是ガ出來マスレバ、或ル程度ノ設備
ニ對スル惱ミハ解決スルト思フノデアリマ
ス

ハ、大キナ印刷ノ技師トシテ工場ニ通ツテ
居ル人モアリマセウ、或ハ又工場ノ技師ト
ナツテ出テ居ル人モアリマセウ、支配人ト
ナツテ居ル人モアリマセウ、或ハ又官吏モ
アリマセウ、公吏モアリマセウ、或ハ議員
モアリマセウ、サウ云フ人々ニ、産業教育
デアルトカ、或ハ公民教育デアルトカ云フコ
トヲ御願シテヤツテ貰フコトガ、即チ國家
總動員法ノ趣旨ニモ副フノデハナイカト思
フノデアリマス、即チ斯ウ云フ國家總動員
法ガ布カレル時代ニナツテ、國民ハ男モ女
モ、オ爺サンモオ婆サンモ、國ヲ舉ゲテ國
家社會ノ爲ニ盡シタイト云フ考ヲ持ツテ居
リマシテモ、盡スベキ途ガナイト云フ立場
ノ人モ澤山アルト思フノデアリマス、斯ウ
云フ方々ヲ動員シテ、此ノ大切ナ青年教育
ノ完璧ヲ期スルコトガ、私ハ所謂國家總動
員法ノ間接ノ效果ヲ擧ゲルノデハナイカト
思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ當
局ノ御考ヲ承レバ幸デアルト思ヒマス

ガアツタノデアリマスガ、熟練工ノ養成ガ
商工省ニ依ツテ經營セラレテ居ル、或ハ又
飛行士、飛行機技術者ノ養成ガ逓信省ニ於
テ大規模ニ計畫サレル、或ハ又農民道場ガ
農林省ニ於テ今日取上ゲテヤラレテ居ルト
云フヤウナコトハ、結局文部省ニ於テ少ク
トモ國策ノ線ニ沿ウタ教育ガ施サレルコト
ヲ御計畫ニナルニ付テ困難ナ立場ニアル、
即チ内部的ニ何カ缺陷ガアルノデハナイ
カ、文部省ノ機構ト云フモノニ付テ改善ヲ
サレル餘地ガアルノデハナイカト考ヘラレ
ルノデアリマス、無論教育ト云フモノハ、
其ノ本質ガ百年ノ大計ニ基礎付ケラレテ居
ルノデアリマスルカラ、一時的ノ時局ニ依
ツテ容易ニ動カサレルモノデナイト云フコ
トハ、是ハモウ吾々ハ承知致シテ居ルノデ
アリマス、併シソレカト申シマシテモ、餘
リ此ノ制度ガ固定サレ、或ハ畫一ニナツテ
シマツテ居リマスルカラ、總テノ末端ニ至
ルマデ縛ラレテシマツテ、身動キノ出來ナ
イヤウニナツテ居ル、即チ斯ウ云フ風ナ時
局ニ沿ウテ、其ノ時局ニ沿フダケノ姿勢ヲ
整ヘルコトガ出來ヌマデニ固定シテシマツ
テ居ルノデハナイカト思フノデアリマス、
之ニ付キマシテ、一ツノ地方問題デ甚ダ恐
レ入リマスケレドモ、最近東京デ困ツテ居

アリマスガ、是ハ中々容易デハアリマセヌ、
ソコデ御相談申上ゲタイコトハ、普通科ノ
生徒ハ現在ノ小學校ニ通ハシテモ仕方ガナ
イガ、本科ノ生徒ハセメテ中等學校ニ通ハ
セ、中等學校ノ設備ヲ使用セシムルト云フ
コトニナサツテハ如何カト思フ、明治二十
三年ニ出タ小學校令ニ、實業補習學校トカ
サウ云フ風ナ種類ノモノハ小學校ノ種類ト
看做スト云フコトガアリマス爲ニ、今日實
業補習學校ガ青年訓練所トナリ、或ハ青年
訓練所ガ青年學校トナリマシテモ、何處マ
マデモ當時ノ此ノ規定ガ付イテ廻ツテ、青
年學校ト云フモノハドコマデモ小學校ノ附
屬物デアルト云フ風ナ觀念ガ去ラナイ爲ニ、
斯ウ云フコトニナツテ居ルノデハナイカト

ソレカラモウ一ツハ教育ノ内容デアリマ
スガ、地方ハ比較的其ノ點ハ簡單デアルト
思ヒマス、大體ニ於テ農業本位デアリマスカラ
差支ナイト思ヒマスルガ、都會ニ於キマシテハ、
何ト申シマシテモ先刻申上マシタヤウニ、其
ノ生徒ハ晝間從事致シテ居リマスル職業ガ非
常ニ種類ガ多イノデアリマス、サリトテ之ニ向
ツテ全力ヲ擧ゲルニアラザレバ、私ハ青年
ヲ惹付ケル魅力ガナイ、青年學校ニハ全然
魅力ガナイト思フノデアリマス、此ノ點ニ
全力ヲ傾倒シテ進マナケレバナラスト思フ
ノデアリマス、ソコデ此ノ産業教育ト云フ
コトニ付キマシテハ、出來ルダケ其ノ地方
ニ於ケル實際家ヲ委囑致シマシテ其ノ衝ニ
當ツテ貰フ、例ヘバ或ル一定ノ地域内カラ

居ル人モアリマセウ、或ハ又工場ノ技師ト
ナツテ出テ居ル人モアリマセウ、支配人ト
ナツテ居ル人モアリマセウ、或ハ又官吏モ
アリマセウ、公吏モアリマセウ、或ハ議員
モアリマセウ、サウ云フ人々ニ、産業教育
デアルトカ、或ハ公民教育デアルトカ云フコ
トヲ御願シテヤツテ貰フコトガ、即チ國家
總動員法ノ趣旨ニモ副フノデハナイカト思
フノデアリマス、即チ斯ウ云フ國家總動員
法ガ布カレル時代ニナツテ、國民ハ男モ女
モ、オ爺サンモオ婆サンモ、國ヲ舉ゲテ國
家社會ノ爲ニ盡シタイト云フ考ヲ持ツテ居
リマシテモ、盡スベキ途ガナイト云フ立場
ノ人モ澤山アルト思フノデアリマス、斯ウ
云フ方々ヲ動員シテ、此ノ大切ナ青年教育
ノ完璧ヲ期スルコトガ、私ハ所謂國家總動
員法ノ間接ノ效果ヲ擧ゲルノデハナイカト
思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ當
局ノ御考ヲ承レバ幸デアルト思ヒマス

居ルノデアリマス、ソレハ一體ドウ云フ譯デ
アリマスカ、例ヘバ先日モ此ノ席デ御意見
ハ、大キナ印刷ノ技師トシテ工場ニ通ツテ
居ル人モアリマセウ、或ハ又工場ノ技師ト
ナツテ出テ居ル人モアリマセウ、支配人ト
ナツテ居ル人モアリマセウ、或ハ又官吏モ
アリマセウ、公吏モアリマセウ、或ハ議員
モアリマセウ、サウ云フ人々ニ、産業教育
デアルトカ、或ハ公民教育デアルトカ云フコ
トヲ御願シテヤツテ貰フコトガ、即チ國家
總動員法ノ趣旨ニモ副フノデハナイカト思
フノデアリマス、即チ斯ウ云フ國家總動員
法ガ布カレル時代ニナツテ、國民ハ男モ女
モ、オ爺サンモオ婆サンモ、國ヲ舉ゲテ國
家社會ノ爲ニ盡シタイト云フ考ヲ持ツテ居
リマシテモ、盡スベキ途ガナイト云フ立場
ノ人モ澤山アルト思フノデアリマス、斯ウ
云フ方々ヲ動員シテ、此ノ大切ナ青年教育
ノ完璧ヲ期スルコトガ、私ハ所謂國家總動
員法ノ間接ノ效果ヲ擧ゲルノデハナイカト
思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ當
局ノ御考ヲ承レバ幸デアルト思ヒマス

ルコトガアルノデスト、申シマスルノハ東京市立ノ京橋商業學校ト云フノガ、震災前カラ京橋區内ニアツタノデアリマス、所ガ是ガ區劃整理ニ依リマシテ道路ノ支障ニナルト云フノデ一時芝公園ノ内ニ移轉ヲ致シテ居ル、所ガ段々其ノ建物ガ腐朽致シマシタノデ、愈々當局ハ之ヲ改築シナケレバナラスコトニナツタガ、元々京橋區内ニ出來タ學校デアリガ、震災ノ爲ニ芝ニ參リマシテ、而モ非常ニ評判ノ好イ學校トナリ、殆ド全國ニ類ヲ見ナイ程ノ入學志望者ガアルト云フ今日ノ盛況ヲ呈シテ居リマスル爲ニ、之ヲ建テマスニ付キマシテハ、非常ニ京橋ト芝ノ間ニ於キマシテ争ガ起キタノデアリマス、ソコダ當局ハ學校關係者ト相談ヲ致シマシテ、是レ程繁昌シテ居ル學校デモアルシ、又實業教育ハ益々盛ニナツテ來ル實情デアルカラ、二ツニシヨウヂヤナイカト云フノデ、京橋ニ一ツ、芝ニ一ツ、二ツ學校ヲ建テルト云フコトニナツタノデアリマス、ソコダ文部省ニ許可ノ申請ヲ致シ、内務省、大藏省ニ起債ノ申請ヲ致スコトニナツタノデアリマスルガ、愈々本年ノ一月是ガ認可ニナツテ來マシタ、其ノ認可ガドウ云フ形式デ現ハレテ來タカト申シマスルト、時局關係デ二ツヲ建テルコトハ認めナイ、一ツデ宜シ

イ、而モソレハ芝區内ノ現在ノ學校ヲ改築スルコトニ許可ヲスルト云フコトニナツタノデアリマス、所ガ其ノ學校ノ名前ハドウ云フヤウニ文部省ガ告示ヲサレタカト申シマス、京橋商業學校ガ芝區内ニ新ニ移轉改築ヲスルニ付テ、四月一日カラ芝商業學校ト校名ヲ改メヨト云フコトニナツタノデアリマス、而モ是ガ告示サレタノデアリマス、所ガ今マデ二十年ニ近イ永イ間京橋商業學校トシテ賣込シタ此ノ學校デアル、京橋商業學校ヲ母校トシテ多數ノ青年ガ活社會ニ出テ活動シテ居ルノデアリマス、サウ云フヤウナ人々ハ自分ノ母校ヲ失フト云フコトニナツテシマフ、京橋商業學校ハ昭和十四年ノ三月三十一日限り無クナツテシマフト云フコトニナル、是ガ爲ニ非常ニ今當局ハ困ツテ居ルト同時ニ騒イデ居ルノデアリマス、是ハ怪シカラヌ、文部省ノヤリ方ハ餘リヒドイヂヤナイカ、芝區内ニ出來ルカラ芝商業學校ト名前ヲ變ヘナケレバナラスト云フヤウナトコトハ、一體何處ニ理窟ガアルノカ、芝デアラウガ、麻布デアラウガ、元々學校ノ名前ハ一ツノ看板デアル、登録デアル、何モ其ノ土地ノ名前ヲ冠スル必要ハナイヂヤナイカ、即チ現ニサウ云フヤウナ實例ハ澤山アルノデアアル、東京ニ於テハ青山師範

學校ガ明治初年以來青山ニアリマシタガ、ヤハリ其ノ土地ノ關係デ他ニ移轉ヲシマシタ、ソレデモ青山師範學校ト云フ名前デ立派ニヤツテ居ル、寧ロソレガ其ノ學校ノ沿革ヲ物語ルコトデ結構ヂヤナイカト云フヤウナコトカラ、何トカモ元ノ通り京橋商業學校ニシタイト云フノデ再三數願陳情シテ居リマスルガ、文部當局ニ於キマシテハ、イヤ一旦告示シタ以上ハ出來ナイ、ソレデ何トカ押付ケテ行ケ、斯ウ云フコトヲ言ハレテ居ルノガ今日ノ實情デアリマス、斯ウ云フコトハ小サイ問題デアリマセウガ、鬼ニ角斯ウ云フコトカラ考ヘマシテモ、文部省ノ教育行政ト云フモノノヤリ方ガ、今日世間ガ大キナ動キヲシテ居ルニ拘ラズ、其ノ動キニ副ヒ得ラナイヤウナ機構ニナツテ居ル、サウ云フヤウナ御立場デアリマス、之ニ付キマシテモ、此ノ機會ニ於キマシテ、此ノ校名問題ニ付テドウ云フヤウナ御考ヲ有ツテ居ラレルカ、是ハ多數ノ者ガ希望シテ居ル、而モ是ハ正當ナ要求デアル、此ノ京橋商業ト云フコトニ改メテ載キ得ルカドウカト云フコトモ御聽カセ願ヘマスレバ非常ニ幸デアリマス、私ハ以上ヲ以テ質問ヲ終了致シタイト思ヒマス

○小柳政府委員 長野君ノ御質問ニ對シマシテ便宜私カラ御答ヲ致シタイト存ジマス、青年學校ガ時局ニ顧ミテ頗ル重要ナルコトハ御示ノ通りデアリマシテ、當局ト致シマシテモ此ノ點ニ付キマシテハ最善ノ努力ヲ致シタイト存ジテ居ル次第デアリマス、又農村ノ青年學校ト都市ノ青年學校ト比較致シマシテ、都市ハ其ノ經營ガ頗ル困難デアルト云フ點ハ、當局モ亦其ノ感ヲ同ジウスルノデアリマス、今御示ノヤウニ、都市ニ於キマシテハ生徒ノ職業ガ區々デアリマス爲ニ、就學時間等ニ非常ナ不便ヲ來スコトモアリマス、又生徒ノ異動ノ爲ニ頗ル經營ニ困難ヲ來スコトモアリマス、又多クハ地方カラ參ツタ青年デアリマシテ、即チ母校關係ノ無イ學校ニ入ルト云フヤウナ不便モアリマス、又場合ニ依リマシテハ、通學上ニ於テ風紀上ノ問題モ、農村ニ比較致シマシテ都市ニ於テハ起リ易イ、斯ウ云フヤウナ點ニ顧ミマス、都會ノ青年學校ノ經營ハ頗ル困難デアリマスガ、併シ青年學校ノ重要ナルコトハ申スマデモアリマセヌカラ、有ユル困難ニ打克ツテ、立派ナ成績ヲ擧ゲルヤウニ努力致サナケレバナラスト思ヒマス、此ノ爲ニ或ハ雇傭家ノ關係ヲ考ヘマシテ、雇主ニ十分ニ理解ノ行クヤウニ、即チ

後援會其ノ他ノ團體ヲ獎勵致シマシテ、サ
ウシテ此ノ事業ノ達成ニ助力シテ戴クヤウ
ニスルトカ、或ハ又同ジ業務ニ關係ノ者ガ、
例ヘバ組合等ニ於テ私立ノ青年學校ヲ設ケ
ルトカ、又大キナ工場會社等ニ於テ私立ノ
青年學校ヲ設ケルトカ云フヤウナ方法モ講
ジ、色々ノコトヲ考ヘマシテ、都市ノ青年
學校ノ發達ヲ圖ツテ居ルノデアリマス、併
シ是等ハ頗ル重要ナル問題デアリマスカラ、
尙ホ將來トモ其ノ成績ヲ舉ゲル爲ニ、色々
ナ手段ヲ講ジナケレバナラヌト思ツテ居リ
マス

次ニ色々ノ項目ニ付キマシテ御質問デゴ
ザイマシタガ、先ヅ第一ニ、青年學校ノ爲
ニ産業ニ惡影響ヲ及ボシハシナイカト云フ
御質問デアリマス、洵ニ御尤ト存ジマス、
小學校教育ヲ卒ヘテ直接産業ニ關係シテ居
ル人ガ、其ノ幾分ナリトモ時間ヲ割イテ青
年學校ニ行クト云フコトハ、産業方面ニ影
響ノアルコトハ勿論デアリマスガ、併シ之
ヲ國ノ全體カラ見マスト、青年學校ニ於キ
マシテ産業上ノ知識、或ハ産業ノ精神ヲ習
得スル爲ニ、國家ノ産業ニ及ボス利益ノ
大ナルニ想到致シマスレバ、多少ノ是等ノ
影響モ忍バナケレバナラヌト存ジマス、
又青年訓練所時代ノ實績ニ徴シ、又義務制

ナラザル時代ノ青年學校ノ實績ニ徴シテ見
マスト、青年學校或ハ青年訓練所ニ通學シ
タ者ハ、其ノ義務心、其ノ責任心ハ頗ル旺
盛デアリマシテ、却テ僅カナ時間ニ産業上
ニ餘計ニ貢獻シテ居ルト云フ立派ナ例モア
ルノデアリマスカラ、是等ノ實績ニ鑑ミマ
シテモ、産業精神ヲ鼓吹シ、サウシテ其ノ
職務ヲ責任ヲ以テ行フヤウニ指導致シマス
レバ、其ノ影響ハ幾分ナリトモ又緩和スル
コトガ出來ルト思フノデアリマス、併シナ
ガラ是等ハ相當重要ナル問題デアリマスル
カラ、青年學校ニ義務制ヲ實施スル上ニ於
キマシテハ、常ニ考慮致シマシテ、サウシ
テ最善ヲ期スベキモノト存ジテ居リマス

第二ニ高等小學校卒業者ト普通科トノ關
係ノ御質問デアリマシタガ、御示ノヤウニ
高等小學校ヲ卒ヘタ人ハ十分ニ知識ヲ習得
シテ參ツテ居ルノデアリマスカラ、其ノ他
ノ者ト比較致シマシテ、知識ノ上ニ於テ多
少ノ差ノアルト云フコトハ是ハ免レナイト
存ジマス、併シナガラ青年學校ト云フモノ
ハ、申スマデモナク産業ニ關係シテ居ル人
ガ生活ニ即シテ、一面産業上ノ知識ヲ習得
シ、産業ノ精神ヲ涵養スルノデアリマスカ
ラ、其ノ立場カラ考ヘテ見マスト、多少知
識ニ於テハ劣ツテ居ルケレドモ、職業ニ即

シテ居ルト云フ體驗ハ、又以テ知識ヲ補フ
コトガ出來ルコトモアルト思フノデアリマ
スルシ、又青年學校ハ御承知ノヤウニ勞作
ノ教育ト申シマセウカ、或ハ行ノ教育ト申
シマセウカ、サウ云フヤウナ立場ニ於テ之
ヲ見ル方面モ廣イノデアリマスルシ、又ド
ウシテモ個人ノ完成ト云フ點ニ立チマシ
テ、個人指導、個人教育ト云フ風ニナルベキ
點モ多イノデアリマスルカラ、是等ノ點カ
ラ考慮致シマス、此ノ二種類ノモノノ知
識上ノ差別ハ相當ニ調節セラレマシテ、成
績ヲ舉ゲルコトガ出來ルト思ヒマス、併シ
ナガラ是ハ洵ニ困難ナコトデモアリマスル
シ、且ツ重要ナコトデモアリマスルカラ、
教師ニ於テ十分研究ヲ積ムベキモノト存ジ
テ居ル次第デアリマス

次ニ中等學校ノ中途退學者、即チ一段ト
知識ノ高級ナル者ヲ青年學校ニ於テドウ云
フ風ニ取扱フベキヤト云フ問題デアリマス
ルガ、是等ノ人ヲ普通ノ青年學校ノ生徒ト
シテ取扱フコトハ、色々ノ點ニ於テ困難ハ
アリマセウケレドモ、一面研究科ト云フヤ
ウナ方面ニ是等ノ人ヲ收容スル途モアリマ
スシ、成ベクサウ云フヤウナ人モ、青年學
校ノ特色アル教育ヲ受ケサセルヤウニ指導
致シタイト存ジテ居リマス、又、斯ウ云フ

ヤウナ、人ヲ容レル爲ニ、中等學校ヲ直チニ
青年學校ニ代用スルヤウニスルガ宜イト云
フ御意見ハ一應御尤ニ存ジマスガ、申スマ
デモナク中等學校ノ數ハ、小學校ノ數ニ比
較シテ少イノデアリマスカラ、其ノ學校ノ
位置、通學ノ便否ト云フヤウナ點カラ考ヘ
テモ困難モアリマセウシ、又一面中等學校
ハ其ノ多クハ府縣立ニナツテ居ルノデアリ
マスカラ、青年學校ノヤウニ市町村ノ設立
ニナルモノトハ、管理ヲモ異ニスル關係上、實際
ニ於テ困難ト思ヒマス、更ニ進シテ府縣立ノ
青年學校ヲ考ヘルト云フコトハ、是ハ將來ノ
考究スベキ問題ト考ヘラレルノデアリマス

次ニ東京市ノ例ヲ御示シテ、校名ト學校
トノ關係ニ付テ具體的ノ御質問ガアリマ
シタガ、此ノ問題ニ付キマシテハ、私ハ
マダ詳シク事情ヲ存ジテ居リマセヌカ
ラ、茲ニ御答スルコトガ困難デアリマスル
カラ、十分ニ調査致シテ別ニ又申上ゲタイ
ト存ジマスガ、大體聞イテ居ル所ニ依リマ
スルト、此ノ學校ハ非常ニ腐朽シテ居ツタ
關係上、新ニ建テルコトニナツタサウデア
リマシテ、偶、其ノ場所ガ從來校名ノ由ツテ
來ル場所ト違ツテ居ル爲ニ、母校ト云フ關
係ニ於テ頗ル妙ナ立場ニナツタト云フコト
ハ洵ニ御尤ト存ジマス、併シ校名ハ、大體

其ノ設立スル所ノ府縣、市町村等ノ方カラ名ヲ附シテ上申セラレルノデアリマシテ、ソレヲ當局ト致シマシテハ是認スル方針ニシテ居ルノデアリマス、勿論是ハ校名デアリマスカラ、必ズシモ所在地ノ名ヲ附スルノ必要モアリマスマイケレドモ、多クハ便宜上所在地ノ校名ヲ附スルコトニナツテ居リマス、又特別ノ沿革由緒トモ申シマセウカ、サウ云フヤウナ關係モアルモノニ付キマシテハ、別個ニ考慮シテモ差支ナイモノデハナイカト考ヘテ居リマス

○長野(高)委員 大體私ノ御尋ニ對シテ政務官ノ御答辯デ結構ト思ヒマス、唯一點、義務教育ノ延長ニ對シテ、今回ノ青年學校ノ義務制ニ關聯シテ如何ナル御考ヲ持ツテ居ラレルカト云フコトヲ大臣カラ一ツ御答辯ヲ願ヒタイ

ソレカラモウ一點、今御答辯ノ中ニ、私ノ申上ガ方ガ足りナカツタセイカモ知レマセヌガ、多少齟齬シテ居ル點ガアルノデ今一應御尋シタイ、ソレハ小學校ヲ卒業致シマシテ現在ノ中等學校ナリ、或ハソレヨリモ短期ノ中等學校ニ入りマシタ者ガ、之ヲ出マス年齡ハ先ヅ十六七歳ト思フノデアリマス、然ラバ現在青年學校ヲ義務教育ト致シマス建前ガ、十二歳カラ十九歳マデノ青

年ニ對シテ教育ヲ繼續スルト云フコトニ其ノ趣旨ガ在ルト致シマスナラバ、即チ此ノ中等學校ヲ出テ來マシタ一番大切ナ二年ナリ三年ナリノ時期ニ教育ヲ休ム、所謂間隙ヲ與ヘルコトニナルト思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハドウ云フ風ナ御考ヲ持ツテ居ルカト云フコトヲ御尋シタノデゴザイマス

○田中政府委員 私ヨリ御答申上ゲマス、只今御話ノゴザイマシタ點デアリマスガ、文部省デ只今考ヘテ居リマスルコトハ、大體中學校ニ付テ申シマスルト、四年程度ヲ終了致シマシタ者ニ對シマシテハ、青年學校ニ就學スル義務ヲ免除スル、斯様ニ致シテ居ルノデアリマス、此ノ事ハ御説ノ通りニ青年期ヲ通ジテ教養ニ間隙ナカラシムル、サウ云フ青年學校ノ義務制ノ本旨カラ申シマスルト、少シク外レテ居ル點ガアルノデアリマス、是ハ御説ノ通りデアリマス、併シナガラ一面ニ於キマシテ中等學校ニ於キマシテ四年程度ヲ修了致シマシタ者ヲ、更ニ青年學校ニ義務付ケマシテ收容スルト云フコトハ常識カラ考ヘマシテモ、又サウ云フ者ガ入ツテ參リマシタ場合ニ於テ、却テ現ニ在學シテ居ル青年學校ノ生徒ニ對スル影響等カラ考ヘマシテモ、斯ウ云フ者ニ義務

ヲ課スルト云フコトハ却テ考ヘモノデアラウ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、サウ云フ點カラ致シマシテ、當局ト致シマシテハ大體中等學校四年程度ヲ終了致シマシタ者ニハ、改メテ青年學校ニ就學スルコトヲ義務トシナイ、斯様ナ方針ヲ執ツタノデアリマス、併シナガラ先程モ申シマシタヤウニ、其ノ點ハ青年期ヲ通ジマシテ、適齡マデ國家的ノ教育ヲ施スト云フ原則カラ申シマスルト、確ニ外レテ居ルノデアリマス、ソコデサウ云フ者ニ對シマシテモ、ヤハリ適齡期マデ國家的ノ教育ヲ施スヤウニ致シマスコトガ理想トシテ望マシイコトト考ヘルノデアリマス、就キマシテサウ云フ場合ニ於キマシテハ、義務トシテ強制致シマスコトハ困難デアリマスケレドモ、青年學校ニハ研究科トカ、或ハ專修科ト云フヤウナ科モゴザイマスノデ、サウ云フ方面ニ入學致シマスコトヲ獎勵致シマシテ、成ベク御話ニゴザイマシタヤウナ御趣旨ニ副ツタ結果ヲ舉ゲルヤウニ致シタイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○長野(高)委員 今一點、先刻御答辯ノ中ニモアリマシタヤウニ、今回ノ義務ヲ負ハシマスル團體ハ、大體市町村ト云フコトニナツテ居リマスガ、是ハ將來進ンデ府縣

ニモヤハリ其ノ義務ヲ負ハシメテ、國家ノ仕事ニ協力セシメルト云フ御意見ハ近キ將來ニ於テゴザイマセヌカ

○小柳政府委員 只今ノ點ハ先刻モ少シク觸レタノデアリマスガ、實際ニ於テハ可ナリ必要ノ點ガアルト思ヒマス、併シナガラ學制全般ノ關係モアリマスノデ、直チニ近キ將來ニ於テ此ノ義務制ヲ實施スルト云フコトハ困難ト存ジテ居リマス

○長野(高)委員 文部大臣ニ對スル質問ヲ留保致シマシテ、私ノ質問ハ本日ハ是デ終リマス

○樋口委員 只今御尋ニナツタコトニ一寸關聯シテ——青年學校ノ普通科ト、一方義務教育ノ二年延長ト云ヒマスガ、今度ハ高等國民學校トナツテ居ルヤウデアリマスガ、此ノ高等國民學校トノ關係ニ付テ、私共聊カ疑義ヲ持ツテ居ル者デアリマスガ、ソレニ付キマシテ、國民學校ニ關スル要綱ト云ヒマスガ、八年制ニナルニ付テノ要綱ガアリマシタラ參考ニ戴キタイト思ヒマス

○田中政府委員 只今ノ點高等國民學校ノ問題ニ付テハ、御承知ノ通り先般教育審議會ニ於テ政府ニ答申致シタモノガ詰リ其ノ要綱デゴザイマス、其ノ要綱ハ後刻差上ゲマス

○田子委員 一寸關聯シテ——義務制ト云

フノハ、明文ナシニ義務ニナサルノデスカ

○田中政府委員 青年學校ノ義務制ニ付キ

マシテハ、青年學校令ヲ近ク改正致シマシ

テ、其ノ中ニ義務ノコトヲ明示スルコトニ

致シテ居リマス、ソレハ御手許ニ配付シテ

アル筈デアリマス

○野村委員長 ソレデハ本日ハ是ニテ散會

致シマス、明日ハ午前十時カラ開會致シマ

ス

午後零時十分散會

昭和十四年二月二十二日印刷

昭和十四年二月二十三日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局